

～ 塩竈市独自の小中一貫教育 ～

子どもたちの育ちと学びを滑らかにつなぎます 「幼保小連携事業の推進」

今年度で2年目となる塩竈市独自の小中一貫教育の一環として、本市では、市内の小学校と幼稚園・保育所(園)を接続する「幼保小連携事業」を積極的に進めております。

幼保小連携事業とは、近年、小学校に入学した児童が授業中に立ち歩く、話を聞けない等、学校生活に適応できず、学級がうまく機能しない状況に陥る「小1プロブレム」に対応するためのもので、本市では、特に、特別支援教育の視点での幼保小連携に取り組んでいます。

以下、「幼保小連携事業」の具体的な取組について紹介します。

【具体的な取組①】特別支援教育スーパーバイザーによる幼稚園・保育所(園)、小学校巡回訪問



本市では、昨年度から、塩竈市学びの支援センター「コラソン」に、「特別支援教育スーパーバイザー」1名を配置し、市内の小学校(7)をはじめ、市内外の私立幼稚園(6)、公立保育所(5)、私立保育園(6)の合計24の関係施設を巡回訪問しながら、教職員や保護者からの相談を受け、指導や助言を行っています。

また、巡回訪問では、定期的または幼稚園・保育所(園)からの要請を受けて、子どもたちの授業や活動を参観した後、子どもたちへの支援の仕方について先生方と話し合いを行っています。さらに、幼児向けの教材づくりの研修会を開催するなどの訪問も行っています。

【具体的な取組②】アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの活用

本市では、幼稚園・保育所(園)と、小学校の「生活」や「学び」が円滑に接続できるように、幼稚園・保育所(園)が小学校入学前に使用する「アプローチカリキュラム※1」と、小学校入学直後に使用する「スタートカリキュラム※2」を独自に作成し、各学校や幼稚園等に配布・活用しています。また、特別支援教育スーパーバイザーが行う巡回訪問の際には、その活用方法を紹介しています。

※1：アプローチカリキュラム

小学校の学習や生活に滑らかに接続できるように工夫された、幼稚園・保育所(園)の年長後半で使用する指導計画(「挨拶の仕方」、「持ち物の整理」、「遊びのルール」など)

※2：スタートカリキュラム

小学校の学習や生活に順応できるように工夫された、小学校入学当初で使用する指導計画(「給食の準備・片づけ」、「登下校の仕方」、「友達づくり」など)

